

京 都 大 学

國文學論叢

第 7 号



漢詩と俳句 日野 龍夫 (一)

大正前期の歴史小説・史劇論 奥野久美子 (二七)

—— (新解釈) と (歴史性) をめぐる文壇的背景と芥川 ——

能《正儀世守》の造型と作者 中嶋 謙昌 (三九)

—— 物狂能構造の応用例 ——

〈七騎落〉間狂言試論 川島 朋子 (五六)

—— (俊寛) との影響関係の可能性 ——

『サントスの御作業』の稿本 川口 敦子 (1)

—— バレト写本の注記より ——



（編集後記）

本号は、能楽を扱った論考が二本、キリシタン資料、漢詩・俳句、評論類を扱った論考が各一本という内容になりました。

前号の刊行からの数ヶ月を振り返りますと、その間、世界にはまさに未曾有の激震が走り、今なお揺れ動いています。世界中の人々にとつて、忘れることのできない年となった二〇〇一年も残りわずか、ここに今年後半の五本の研究成果を集め、『京都大学国文学論叢』第七号をお届けいたします。

（奥野）



平成十三年十一月二十五日 印刷
平成十三年十一月三十日 発行

編集発行者

千六〇六一八五〇一

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科国語学

国文学研究室「国文学論叢」編集部

電話 〇七五―七五三一―二八二四

印刷者

京都市下京区室町通り仏光寺上る

亜細亜印刷株式会社



※表紙題字『易林本節用集』より

（京都大学文学部蔵慶長板）